

忍者市宣言

宣言文

私たち伊賀市民は、伊賀市が忍者発祥の地であることを認識し、忍者の歴史文化や精神を継承するとともに、忍者を活かした観光誘客やまちづくりを行うことを目指して、ここに「忍者市」を宣言します。

平成29年 2月22日

伊賀市長 岡本 栄

説明文

【忍者の精神】

精神は、古文書では「正心」と表現されている。忍術伝書「万川集海」はその冒頭で延々と「正心」を説いている。忍術を私利私欲に用いることを強く戒め、正心とは仁義忠信を守ることとしている。

現代においては、自己の技能・知識を利他的・公益的に用いることと理解できる。

【忍者発祥の地】

室町・戦国時代の伊賀では、大名の力が弱いかわりに国人・土豪の力が強く、多くの砦や館を築いて、伊賀惣国一揆といった自治組織を形成し、掟をつくって連帯していた。この一揆は、天正伊賀の乱の際には一度は織田信雄軍を退けるほどの力を有していた。（「惣国一揆掟書」（神宮文庫所蔵山中文書））。

菊岡如幻『伊乱記』によると、伊賀に住む人々は午前中は家業を行い、午後は寺に集まって軍術・兵道の稽古、とりわけ惻隠術（忍びの術）の訓練をしたという。集団で武装して他国からの侵略に備えるためには、個人で備えるだけでなく集団で訓練していたのであった。

このように伊賀においてはさまざまな要素が重ね合わさって、たぐいまれな「忍者」が生まれ育ち、江戸時代には日本各地に忍者を供給していたのである。